

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人長岡市芸術文化振興財団	
施設名	長岡リリックホール	
内定額	13,776	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		346	341
年間事業本数（※1）	主催事業	43	37
	公演事業	27	18
	（内、本助成対象事業本数）	10	8
	人材養成事業	10	1
	（内、本助成対象事業本数）	8	1
	普及啓発事業	6	18
	（内、本助成対象事業本数）	5	13
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	436	427
	ホール名：コンサートホール 座席数：700席	229	222
	ホール名：シアター 座席数：450席	207	205
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	27,968	21,137
	公演事業	21,581	11,849
	人材養成事業	2,024	311
	普及啓発事業	4,363	8,977
	その他 内容： 記入してください	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	60,617	62,533
	その他 内容： 記入してください	0	0
	計	88,585	83,670
施設の利用率(%)		81.7%	81.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	17	18	11,030	76.6%	1	10	1	2	1	2	
	共催・提携公演（※2）	9	10	10,551	85.4%	2	4	1	1	1		
	貸館公演（※3）	278	286	60,617	72.2%	12	193	27				46
	計	304	314	82,198								
令和6年度	主催公演（※1）	11	12	6,357	93.4%	2	7	0	1	1		
	共催・提携公演（※2）	6	6	5,492	81.0%		2	1	2	1		
	貸館公演（※3）	288	291	62,533	70.9%	24	177	43	3			41
	計	305	309	74,382								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	小松亮太 アルゼンチンタンゴ五重奏～藤沢嵐子が愛した長岡で～	目標 値	560	80.0%	観客の満足度 (アンケート5段階の上位2項目)	90%	97.6%	観客アンケート結果において、満足度は目標値を上回る評価を得た。長岡市でタンゴへの需要が多いことが改めて認識できた。また、若年層のタンゴへの興味喚起についても、出演者に相談し、わかりやすい解説を入れたことで観客アンケート結果において実績値としては、目標を大きく上回った。		
		実績 値	533	76.1%	25歳以下のタンゴへの興味が深まったとした回答率	80%	92.9%			
公-02	Masumi Yamamoto with TLQ plus Special JAZZ LIVE	目標 値	400	94.6%	観客の満足度 (アンケート5段階の上位2項目)	85%	91.1%	観客アンケート結果において、満足度は目標値を上回る評価を得た。来場者は地元出身アーティストへの応援の気持ちを持ちながら、公演内容にも好印象を感じたようだ。また、若年層のジャズへの興味喚起についても、本場アメリカで活躍したアーティストからの解説により、観客アンケート結果において、目標を大きく上回った。		
		実績 値	389	92.0%	25歳以下のジャズへの興味が深まったとした回答率	80%	89.4%			
公-03	文学座公演「オセロー」	目標 値	360	85.1%	当事業の昨年度からのリピーター率	20%	21.9%	観客アンケート結果において、リピーター率は目標値を上回った。新規の来場者が増えた点は、今後の計画に活かしたい。また、若年層の演劇への興味喚起についても、高校演劇などでも取り上げられる演目で観客アンケート結果において実績値としては、目標を大きく上回った。		
		実績 値	362	85.6%	25歳以下の演劇への興味が深まったとした回答率	80%	100.0%			
公-04	万作の会 狂言公演	目標 値	400	88.9%	当事業の昨年度からのリピーター率	20%	46.1%	観客アンケート結果において、リピーター率は目標値を大きく上回った。ファンが毎年楽しみにしていることが数字からも読み取れた。また、若年層の演劇への興味喚起についても、冒頭に野村萬斎より解説を入れてもらったことで、観客アンケートにおいて実績値としては、目標を大きく上回った。		
		実績 値	424	94.2%	25歳以下の古典芸能への興味が深まったとした回答率	80%	100.0%			
公-05	澤クワルテットコンサート With ヘンシェル & フレンズ 夢沼恵美子	目標 値	420	60.0%	当事業の昨年度からのリピーター率	20%	45.0%	観客アンケート結果において、リピーター率は目標値を大きく上回った。およそ半数がリピーターであり、継続開催によるファンが定着していることがわかる。また、若年層のクラシック音楽への興味喚起について、澤和樹によるアカデミックな解説が好評ではあるが、目標値には届かなかった。		
		実績 値	331	47.3%	25歳以下のクラシックへの興味が深まったとした回答率	80%	75.0%			
公-06	ala Collection シリーズ vol.15 『いびしない愛』	目標 値	360	85.1%	観客の満足度 (アンケート5段階の上位2項目)	85%	85.8%	観客アンケート結果において、満足度は目標値を上回る評価を得た。来場者は実力派俳優の熱演に一定の評価を示した。また、若年層の演劇への興味喚起についても、若い俳優の起用により、演劇への興味という点で共感を得たためか、観客アンケート結果において、目標を大きく上回った。		
		実績 値	262	61.9%	25歳以下の演劇への興味が深まったとした回答率	80%	97.4%			
公-07	東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会	目標 値	1,100	83.5%	当事業の昨年度からのリピーター率	20%	37.9%	観客アンケート結果において、リピーター率は目標値を大きく上回った。長岡市でのオーケストラ公演は当事業のみの状況でファンも定着してきた。また、若年層のオーケストラへの興味喚起についても、観客アンケートにおいて実績値としては、目標を大きく上回った。中学生らとのワークショップの成果も出てきていると感じている。		
		実績 値	1,165	88.4%	25歳以下のオーケストラへの興味が深まったとした回答率	80%	95.8%			
公-08	小曽根真 featuring No Name Horses The 20th Anniversary	目標 値	1,200	82.0%	観客の満足度 (アンケート5段階の上位2項目)	90%	83.7%	観客アンケート結果において、感想では演奏内容などに一定の評価を得たが、満足度は目標値を下回る形となった。また、若年層のジャズへの興味喚起についても、ジャズという分野がまだ若年層にはなじみがない点があるためか、観客アンケート結果において、目標を下回った。		
		実績 値	1,017	69.5%	25歳以下のジャズへの興味が深まったとした回答率	80%	74.2%			
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	・【指標1】全公演事業の観客満足度(全公演事業のアンケート回答における5段階評価の上位2段階の項目を回答した割合) ・【指標2】劇場への支持・信頼度(全公演事業のアンケート回答における来場理由で「財団の主催事業」だからと回答した割合)	・【指標1】平均で85%以上の満足度で目標達成 ・【指標2】平均で70%以上の回答で目標達成	・【指標1】平均／92.2% ・【指標2】平均／17.3%	・公演事業の全事業における、目標としていた観客満足度は、観客アンケートでの評価において平均91.3%を獲得し、目標を達成しました。芸術鑑賞の拠点施設としての役割を果たすと共に、多彩なジャンルの公演を提供した事業内容に一定の評価を得られたことは大きな収穫があったと評価しています。 ・公演事業の全事業において、目標としていた劇場への支持・信頼度において、「財団の主催事業だから」と回答した割合は17.3%に留まりました。満足度では高い評価を得ましたが、来場理由にはつながらず、今後も質の高い事業を展開し、信頼を重ねる必要があると猛省しています。 しかしながら、公演日の1週間前に指揮者のケガによる変更などのトラブルがあった事業番号7「東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会」においては、本来、来場者からの信頼を失うようなトラブルですが、来場者からは短い期間での当ホールの連絡対応に、労いの言葉まで寄せられるなど、地域住民からの信頼は感じています。		
人材養成事業						
普及啓発事業	・事業参加者の継続体験を希望する割合(全事業の参加者アンケート回答において、「継続体験を希望」と回答した割合)	・平均で80%以上の回答で目標達成	・平均／90.5%	・体験型事業を対象にアンケート調査による設問を設けたところ、高い割合で継続体験を希望すると回答があり、1事業(事業番号3/地元アーティスト学校アウトリーチ)を除き目標を達成しました。これは、事業を体験した参加者が内容に十分に満足し、次回への期待感から回答したものと推測できるため、うれしい結果となりました。学校アウトリーチについては、目標を達成できなかったが、継続的に様々なジャンルの内容を体験することで、改善できるものと考えています。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

自主事業の運営については、より多彩で味わい深い芸術文化と出会う機会を提供し、市民や地元出身アーティストらの創造的な活動を支え、地域の文化振興を図ることを柱に、新たな世代やジャンルの公演を積極的に取り入れながら、創意工夫を凝らして取り組みました。特に事業番号1のバンドネオン奏者の小松亮太さんによるアルゼンチンタンゴ五重奏コンサートでは、「タンゴの女王」と呼ばれ、1950年代の日本のタンゴブームの立役者であり、日本及び本場のアルゼンチンも含めてタンゴ史を語るうえで、欠かすことのできないタンゴ歌手の故・藤沢嵐子さんにスポットを当て、偉大なる大歌手の功績を振り返るという企画を実施しました。藤沢嵐子さんが晩年を長岡市で過ごされたことは、報道等でも既知の事柄となっており、逝去されてから10年が経過し、彼女の1991年の現役最後のコンサートで共演された小松亮太さんを招へいたものです。地域の実情として、タンゴに対する現状は、戦後しばらくとは比較にならない状況にあるのは言うまでもありませんが、その中でも市民によるタンゴサークルがあり、当ホールの練習スタジオでも定期的に活動している団体もあります。「黄金時代」と称され、タンゴの深奥さを最も湛えていると考えるスタイルのタンゴがいつまで続くのかといった懸念すらある今、チャレンジをした公演となりました。公演では、演奏はもとより小松亮太さんより藤沢嵐子さんの偉大さをエピソードを交えてお話いただくと共に、アルゼンチンタンゴについてのレクチャーにより来場者は理解を深めることができました。結果的にほぼ満席となり、市内のみならず、市外からの来場者が観客アンケートでは40.3%となり、企画を理解いただいた方が県内各地から来館されたこと、若年層への観客アンケートで、「タンゴへの理解が深まった」と回答した割合が92.9%に達したこと、同じく来場者アンケートのコメントで藤沢嵐子さんに関するコメントが多数寄せられるなど、企画の目的を十分に果たせたと評価しています。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・海外アーティストと子どもたちの交流により、「海外の文化に興味が高まった」と回答する割合 (当該事業の参加者へアンケート調査を実施する。) 対象事業: 公-2「Masumi Yamamoto with TLQ plus Special JAZZ LIVE」	・対象者のうち85%以上の回答で目標達成。	・86.5%が海外の文化に興味が高まったと回答	・ジャズの本場であるアメリカで経験を積んだ地元アーティストのMasumi Yamamotoが2015年よりサクソフォニストのTrevor Lawrence と共に結成したジャズグループ【TLQ plus】の日本初公演翌日に親子で楽しめるジャズワークショップを実施しました。 Masumi Yamamoto(ピアノ)のほか、Trevor Lawrence(サキソフォン)、Henry Franklin(ベース)、Tony Austin(ドラムス)、Roy McCurdy(ドラムス)による模範演奏に加え、ジャズの成り立ちや、アメリカ文化についてのレクチャーなど、単なる音楽ワークショップではなく、文化的な側面を理解いただけるような内容構成に努めたことで、目標達成につながりました。 また、同ワークショップの中で地元のジュニア世代によるジャズアンサンブル「長岡ジャズキッズ」との共演企画も設け、交流を育みました。参加者は人生で初めての海外アーティストとの合同演奏に目を輝かせ、今後の演奏活動のモチベーションが高まったなどの感想が寄せられています。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「澤クワルテット&ヘンシエル弦楽四重奏団ジョイントコンサート(公-5)」につきましては、日本とドイツを代表する2つの弦楽四重奏団の共演企画となり、「(公-2)」と同様に国際交流の観点から、地元で弦楽器を学ぶ子どもたちとの「弦楽器交流会」を実施し、子どもたちに貴重な機会を提供しました。短時間ではありましたが、技術的なアドヴァイスと、コミュニケーションを取ることにより重きを置いて実施した結果、子どもたちの緊張も和らぎ、講師、受講者、両者ともに楽しむ姿が見られました。
--

評価項目③: 地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※利用者が創作の拠点施設として、地域になくてはならない存在と考えられている。 ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・【指標1】市民文化団体の参画数、または個人参加者数 対象事業: 普-5「第21回リリックホールコーラスフェスティバル」 普-13「リリック・ジュニアフェスティバル2024」	・【指標1】当該事業で25団体500人以上の参加者を得る。	・【指標1】当該2事業での合計で市民参加は25団体496人となった。	・【指標1】については、目標値にわずかに届かなかった。コロナ禍における団体や個人参加の減少から立ち直り、芸術文化活動を楽しみたいと考える市民の活気が戻ってきたと実感しています。		
・【指標2】新たなコミュニケーションの創出状況 対象事業: 普-6「1日限りの吹奏楽部in長岡」 普-7「文学座 演劇活性化事業」	・【指標2】参加者へのアンケートで「新しい仲間ができた」と回答する人が全体の60%以上で目標達成。	・【指標2】当該2事業での「新しい仲間ができた」と回答した割合は33.3%となった。	・【指標2】については、目標値を達成することができなかった。回数を重ねて、同じ目標を達成する事業に比べて、1日で行うワークショップでは、参加者はそこまでの達成感が得られないということが今回の調査で検証できました。		
・【指標3】学校アウトリーチ体験を経験した児童・生徒が学校の授業以外でも芸術文化の体験を希望する割合。 対象事業: 普-3「地元アーティスト 学校アウトリーチ」	・【指標3】参加者へのアンケートで「学校の授業以外でも芸術文化を体験したいと思う」と回答する人が全体の70%で目標達成。	・【指標3】当該事業での「学校の授業以外でも芸術文化を体験したいと思う」と回答した割合は68.4%となった。	・【指標3】については、目標値にわずかに届かなかった。芸術分野よりもスポーツに関心のある児童や生徒もいる中で、芸術分野に興味を持ち、学びたいと考える割合がある程度高いものであったことは、将来の当市における芸術振興の発展に期待が持てる結果となりました。		
・【指標4】貸館業務における利用者の満足度	・【指標4】貸館利用者へのアンケートにおいて満足度(5段階評価の上位2段階の項目を回答した割合)、80%以上で目標達成。	・【指標4】貸館利用者へのアンケートにおける施設利用の満足度は82.1%となった。	・【指標4】については、鑑賞者へのアンケートと比べ、厳しいものを想定していましたが、日々、利用者との対話を心がけていることにより、高評価となりました。特に職員の「接客態度」への評価については、上位2項目の割合が合わせて87%と信頼関係が築けていると実感しています。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

子どもたちが本物の芸術に触れ、体験し、技術と感性を高めていく人材の育成を柱に、アウトリーチ活動やワークショップ等の継続開催により、市民の芸術文化活動を支援するため幅広く事業を実施しました。 東京フィルとの提携事業「東京フィルコミュニティコンサート(普-2)」では、弦・管楽器による八重奏の編成で、市内8地域に首席奏者らが訪問して最高峰の演奏を届けました。地域住民のほか、保育園児や小学生の参加もあり、交流を育んだほか、会場設営などの準備は、地域住民との市民協働により実施しました。 劇団文学座との提携事業「文学座演劇活性化事業(普-7)」では、新進気鋭の演出家で多数の作品で高い評価を受けている生田みゆきを講師に迎えた「演劇ワークショップ」や、文学座アトリエ公演「石を洗う」(作:永山智行、演出:五戸真理枝)の熟演が好評であった俳優の高橋ひろしによる芝居づくりを体験する子ども向けのワークショップのほか、朗読劇やコミュニケーションを深めるゲームなどを実施した小学校へのアウトリーチなど、子どもたちが体験する機会の少ない演劇分野での事業展開により興味を促進しました。 「地元アーティスト学校アウトリーチ(普-3)」では、地元アーティストが市内小・中学校34校を訪問しました。音楽だけでなく、多様な文化を学ぶ機会であり、子どもたちに貴重な体験機会を提供しました。 ジュニア育成事業(普-10,11,12)では、合唱、ミュージカル、弦楽器の3事業を継続実施し、それぞれの分野でプロのアーティストからの指導や共演企画により、これからの時代を担うジュニア世代に対して芸術文化活動の活性化と人間性豊かな人材の育成に寄与しました。 市民との協働で継続実施している「リリック・コーラスフェスティバル(普-5)」、「リリック・ジュニアフェスティバル(普-13)」では、市民による実行委員会との協働により、大人から子どもまで多世代の多くの市民が芸術文化を体験し、また発表する場を提供することができ、芸術文化の拠点としての役割を果たすことができました。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・【指標1】若年層の利用者数(Ｕ－25チケット販売数)	・【指標1】前年度比10%増で目標達成 2023年度のＵ－25チケット販売数は全体のチケットの販売数の10.2%	・【指標1】 2024年度のＵ－25チケット販売数は全体のチケットの販売数の9.7%	・【指標1】若年層の利用者数(Ｕ－25チケット販売数)については前年度を下回る結果となりました。前年度を上回ることができなかった点はプログラム内容による部分が大きいと分析しています。当ホールは芸術鑑賞世代は50代～70代の割合が大きく、若年層の客層を取り組むべく、改善の必要性が顕著に現れたものと考えています。		
・【指標2】子育て世代対象事業の入場者数 対象事業: 普-1「リリック子ども音楽館」 普-4「0歳からのミニ・コンサート」	・【指標2】600人以上の集客で目標達成	・【指標2】 合計620人 (内訳) 普-1「リリック子ども音楽館」／550人 普-4「0歳からのミニ・コンサート」／70人	・【指標2】については、目標値を上回る結果を得ました。0歳から鑑賞できる本格的な催しは市内では限られ、需要の高さを実感しています。「0歳からのミニ・コンサート(普-4)」では、お子さんとの交流から情報交換が行われ、親同士が仲良くなり、一緒に帰路につかれるケースも見られました。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会(公-7)」では、トップレベルの演奏により子どもたちの豊かな感性を育むため、公益財団法人長岡市米百俵財団の支援を受けて「米百俵鑑賞シート」の提供などを継続して実施し、多くの青少年に芸術文化に触れる機会を提供しています。この制度は、子どもたちがお小遣い価格(500円)で購入できる価格帯のチケット枠を設け、差額を長岡市米百俵財団が助成するという取り組みです。自分ではじめてチケットを購入し、はじめて聴くフルオーケストラのトップレベルの演奏による感動は生涯忘れることはなく、券売数の増加はもとより、今後の新しい層のオーケストラファンの開拓につなげています。2023年度は小学生及び中学生の合計125名がこの制度を利用、2024年度は150名が利用し、利用率も拡大しています。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
地域の課題である「部活動の地域移行」へ向けて、子どもたちが多様な体験ができる場を確保する。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・中学生対象の楽器ワークショップや ジュニア育成事業における参加者の 参加満足度(対象事業のアンケート 回答における5段階評価の上位2段 階の項目を回答した割合) 対象事業: 普-8「小山裕幾フルートワークショッ プ」 普-9「東京フィルハーモニー交響楽 団 中学生楽器ワークショップ」 普-10「長岡少年少女合唱団育成事 業」 普-11「ジュニア・ミュージカル育成事 業」 普-12「ジュニア・ストリングオーケス トラ育成事業」	・参加者の平均満足度80%以上で目 標達成	・参加者の平均満足度は97.9% (内訳) 対象事業: 普-8「小山裕幾フルートワークショッ プ」 100% 普-9「東京フィルハーモニー交響楽 団 中学生楽器ワークショップ」 99.3% 普-10「長岡少年少女合唱団育成事 業」 100% 普-11「ジュニア・ミュージカル育成事 業」 98.2% 普-12「ジュニア・ストリングオーケス トラ育成事業」 92.1%	・指標においては、目標を大きく上回り、達成することができました。「小山裕 幾フルートワークショップ(普-8)」及び「東京フィルハーモニー交響楽団 中 学生楽器ワークショップ(普-9)」については、海外でも活躍する著名な講師 らからの指導を受けられるという点で、受講者にとっては貴重な機会となっ たことや、普段からパートによる専門指導などは受けていないため、新しい 発見が多くみつき、演奏における悩みも解決できたなどの声が多く寄せら れました。 ・「ジュニア育成事業(普-10,11,12)」については、年間を通して、同じ目標に 向かい努力を重ねてきたことで、満足度は非常に高いものとなりました。今 後の地域に部活動が移行される際には、重要な受け皿としても期待されて おり、良い傾向が示されたと認識しています。 ・長岡市では令和7年の9月より土日の部活動を地域に移行することが決定 している。事前のアンケートではおよそ半数が土日の部活動参加を希望しな いと回答するなど危機感を抱えており、ジュニア世代の芸術活動の機会損 失とならないよう、支援の強化を検討しています。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

長岡リリックホールはコンサートホールとシアター（劇場）の特性を活かしながら、地域コミュニティを創造する拠点としての役割を充実させることを目指して、市民活動の充実化を後押しする施設運営に努めています。

自主事業の運営については、より多彩で味わい深い芸術文化と出会う機会を提供し、市民や地元出身アーティストらの創造的な活動を支え、地域の文化振興を図ることを柱に、新たな世代やジャンルの公演を積極的に取り入れながら、創意工夫を凝らして取り組みました。

また、青少年を中心とした人材育成事業については、継続実施している「小山裕幾フルートワークショップ（普-8）」や地元アーティストによる「学校アウトリーチ（普-3）」、さらに、東京フィルの楽団員が中学校吹奏楽部を訪問指導する「楽器ワークショップ（普-9）」などの音楽体験事業に加え、小学校向け演劇体験教室や子ども向け演劇体験ワークショップなどの「演劇活性化事業（普-3）」、万作の会による「狂言ワークショップ（公-4）」ほか、地元アーティストや事業提携団体（東京フィルハーモニー交響楽団、劇団「文学座」）とのネットワークを最大限に活かした体験機会の提供に取り組みました。プロとの関わりによる本物の体験は、子どもたちの感動と心の成長を育み、技術の向上に加え、将来を視野に入れた芸術への向き合い方にも大きな影響をもたらしました。

また、若者の鑑賞機会増加を図り、幅広い年代から芸術文化を楽しんでいただくため、継続して取り組んでいる「U-25鑑賞サポート」（割引価格でのチケット販売）や、「東京フィルハーモニー交響楽団長岡特別演奏会（公-7）」では、一流の演奏により子どもたちの豊かな感性を育むため、長岡市米百俵財団の支援を受けて「米百俵鑑賞シート」の提供などを継続して実施し、多くの青少年に芸術文化に触れる機会を提供することに努めました。

◎本物の舞台芸術を提供

「東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会（公-7）」では、2015年の事業提携後、10回目の記念公演となりました。指揮者変更などのトラブルもありましたが、ほぼ満席に近い来場者があり、東京フィルと共に歩み続けてきた成果が現れたものと感じています。その他にも、同じく事業提携を締結している劇団文学座とも年間を通じて、演劇公演、学校アウトリーチ、演劇ワークショップなどを継続的に続けてきた成果が現れ、「文学座公演オセロー（公-3）」では、例年にない好結果を得ることができました。今後も、音楽分野、演劇分野ともに提携団体のノウハウを活用し、ブラッシュアップを図りながら事業を推進します。

◎地元アーティストの活用

地元アーティストの活用により、小中学校にてアウトリーチコンサートを34校42公演を実施しました。教育現場においてはカリキュラムの変更により、いわゆる課外活動が減少するなか、学校訪問により子どもたちの芸術に触れる機会を確保できると教員からも評価を得ており、今後は更なる回数の拡大を計画しています。

◎利便性の向上

令和3年度から導入したチケットのインターネット販売については、令和6年度チケット購入者の全体の56.1%がインターネット予約を利用しており、時代のニーズに沿った販売方法が定着してきています。また、キャッシュレス決済の利用も拡大傾向にあり、来場者からの施設利用満足度の向上の一因となっています。

◎長期的な事業計画の策定

長岡リリックホールは令和8年度に開館30周年を迎えることから、令和6年度では記念事業の実施に向けて市民団体や地元アーティストとの意見交換を行いながら、準備が進んでいる状況です。また令和9年度より大規模改修工事の計画も同時に進行しており、ハード面・ソフト事業ともに長期的な計画策定が進行しています。

・ 所見

